

歴史あるかんがい施設を改修

はじめに

福井市の南部、鯖江市との境に位置し、浅水川から取水する主計取水堰改修事業について紹介します。

■ 主計用水の歴史

主計用水は、浅水、真木、主計中、三本木、今市、角原、鉾ヶ崎など13の地域、約230haの主計の郷をかんがいでいる用水です。

この用水が開かれたのは、1555年～70年(弘治―永禄年間)の時代と言われています。当時、朝倉氏に仕えた山内筑後守が、地域の水不足の解消のため、浅水川上流の村と掛け合い、現角原町にある鞍谷川と浅水川の合流部に堰(当時は土嚢作り)を設置。さらには徳尾町の山裾の岸壁を削って水路を開き、浅水川から取水した用水を地域へかんがいでいたと言われています。

角原町にある主計神社には、山内筑後守の位牌が残されており、用水への感謝を込めて毎年10月に祭礼を行うなど、現代にもその功績が伝えられています。

■ 主計用水の施設管理

1555年～70年頃に堰が設けられて以降、様々な変遷を経て、現在は鞍谷川と浅水川の合流部より下流300mのところ、昭和30年頃に鋼製桁+木製板で構成された堰が設置されています。

施設の管理は、江戸中期頃に組織された主計用水組合が管理し、土地改良法の制定に伴い、昭和27年に主計土地改良区と組織されてからも、引き続き管理されています。

また、主計土地改良区は堰の管理だけではなく、主計の郷の地域営農を支える様々な土地改良施設(用排水路、揚水機場等)も管理しています。

■ 主計の郷をかんがいでいる堰の改修

現在の堰(鋼製桁+木製板)は、昭和30年頃に造成されてから50年経過しているものの、主計土地改良区の日々の管理により、今日まで利用してきました。しかし、破損部分が多くなり、さらには河川の洪水時において洪水調整が出来ない堰であり、今後の営農面または治水面でも不安を抱える状況にあります。

そこで両面の課題を解決すべく、平成30年度からの改修を計画しています。



おわりに

主計の郷に用水が開かれてから約400年以上。歴史がある主計用水が今後も引き継がれ、地域の営農の発展につながるよう、事業の推進を支援していきます。(農村整備部 松山)

編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、日ごとに昼の時間が長くなり春を予感させるこの頃です。年明けからの記録的大雪で被害を受けた方も多いと思います。今年開催される福井しあわせ元気国体・元気大会では豪雪災害から立ち上がった福井を全国にアピールできるといいですね。(企画振興室 山岸)

 福井県 発行:福井農林総合事務所
〒910-8555 福井市松本3丁目16-10 (福井合同庁舎内)
TEL 企画振興室(直通) 0776-21-8201
農業経営支援部(直通) 0776-21-8209
林業部(直通) 0776-21-8213
農村整備部(直通) 0776-21-8216
E-Mail: fuku-noso@pref.fukui.lg.jp

F-mail

No.55
平成30年3月発行

福井農林総合事務所だより

地元の花いっぱい運動推進員さんの活動にご協力を!

公民館を通じて花いっぱい運動を実践していただく「花いっぱい運動推進員」を福井農林総合事務所では65名の方に委嘱しています。

推進員さんは地元の方の協力を得ながら、地元の公民館周辺、公園、道路沿い、地域の花壇で、植え付け、水やりなど毎日花づくりに精を出されています。

今年は9月から10月に福井しあわせ元気国体と元気大会が開催されます。大勢の推進員さんが、会場周辺や選手たちが通るアクセス道路での活動を予定しています。

皆さんも地元の推進員さんと一緒に花いっぱい運動に参加し、選手のおもてなしと大会の成功にご協力をお願いします。



はびねすフラワーを育ててみませんか?

福井しあわせ元気国体・元気大会の花「はびねすフラワー」として13種類の花が選ばれました。

『コリウス、マリーゴールド、キク、千日紅、ケイトウ、コスモス、ヒガンバナ、メランポジウム、バラ、ペチュニア、ペゴニア、ナデシコ、ジニア』です。

会場周辺・会場へのアクセス道路周辺に田畑・休耕田をお持ちの方で「はびねすフラワー」の植栽にご協力いただける方は、下記担当までご連絡ください。

また、県総合グリーンセンターでは、はびねすフラワーの種の貸し出しを行っています。(注1)

種を借りて育てたい方を4月初旬から募集しますので、興味のある方はぜひ当事務所または総合グリーンセンターまでお申込みください。

種の貸し出しは5月中旬頃から始まる予定です。

(注1) 借りた種から花を育て、収穫できた種を返却していただく制度です。(ふっくりんバンク制度)(林業部 仲保・小藤)

はびねすフラワー(例)



コスモス



ペチュニア



メランポジウム

福井県で生まれた新しい地鶏

福地鶏



福地鶏は、在来種「ウエミチレッド」の雄と純国産鶏「岡崎おうはん」の雌の交配で生まれた卵肉兼用種です。

福井管内では、平成29年に5戸の養鶏農家が福地鶏を導入し、平飼いで自由に駆け回り、のびのびとストレスなく育てられています。赤玉の卵は、卵黄が大きめで、白身が弾力性に富んでいることが特徴です。喜ね舎、もぎたて館、丹生膳野菜等の直売所などで販売されています。



昨年12月には、県立恐竜博物館内のレストランDINOで、「福地鶏」の卵を使った親子丼が冬季限定で提供され、また、福井市の飲食店「そば玄」でも、たまご丼が提供しています。さらに、菓子店(栄太楼等)が考案した「福地鶏」の卵を使ったケーキやプリンなどのスイーツが販売されることなど、いろいろな展開を見せています。

今後さらに「福地鶏」の肉が県産食材として飲食店で利用されることが期待されています。福地鶏の卵および肉が安定して生産供給できるように支援し、さらなる増羽に繋げていきます。

(農業経営支援部 舟塚)

29年度 6次産業化 新商品 紹介

新商品

福井農林総合事務所では農業所得の向上や地域活性化を図るため、研修会や個別対応により農業者の皆さんの6次産業化商品の開発から販売までを支援しています。その結果今年度開発された新商品をご紹介します。

JA永平寺は、永平寺町特産のニンニクと玉ねぎを使った「ニンキーソーセージ」を商品化し、れんげの里・道の駅禅の里・福福館などで販売しています。ピールのつまみやバーベキューにピッタリです。



「ニンキーソーセージ」



「おかず味噌」

永平寺の里 野彩工房は、手づくり熟成味噌に赤大豆、大根、しょうが、しその実、エゴマが入った具だくさんの「いろどり味噌」と、青唐辛子を入れたピリッと辛い「なんば味噌」を道の駅禅の里・れんげの里・福福館などで販売しています。あたたかいごはんのにせるだけでなく万能調味料としても使えます。



「落花生あいす」

JA福井市南部女性部落花生部会は、市内の名津井牧場と連携して「落花生あいす」を開発し、直売所もぎたて館で販売しています。手間暇かけて作った落花生のペーストと粒をたっぷり使い、新鮮な牛乳でできたアイスは、濃厚で美味しいと好評です。

(農業経営支援部 村野)

GAP認証で信頼度アップ

—堀内農産(福井市末広町)がJGAP認証を取得しました。—

昨年12月12日に指導農業士の堀内浩徳さんが経営する堀内農産がJGAP認証を取得しました。

JGAP認証は「一般社団法人 日本GAP協会」が実施している、食品安全や環境保全および労働安全に取り組む農場に与えられる認証です。

県内ではこれまで企業が運営する野菜農場等での取得はありましたが、個人が営む土地利用型の大規模農家では初めてです。

きっかけは、農産物の取引先からGAP認証の取得を勧められたことでした。

農林総合事務所では、一昨年、堀内さんからGAP認証の相談を受け、まず「一般社団法人 日本生産者GAP協会」のGAP規準を用いたGH評価を受けていただきました。

それまで堀内さんはGAPに関する研修を受けて少しずつ取り組んでいましたが、GH評価を受けたことでより改善点が明確になり、農薬の管理方法や施設の危険箇所、衛生対策等の改善につながりました。

さらに、圃場の筆数が多いことや雇用者が3名いることなどから、昨年3月にトヨタ自動車の農業IT管理ツールである「豊作計画」やトヨタ方式の「カイゼン」を導入し、圃場管理や労働管理について改善しました。

認証取得後、堀内さんは「今後は農産物を取引している加工業者が、商品に認証マークをつけて販売してもらえれば、認証が生きてくるし、商品の信頼度も増すのでは。」と思いを語られていました。

第三者からの認証を受けることで、消費者や小売業者だけでなく地域においても「Good Agricultural Practice(良い農業の実践)」に取り組んでいる農業者として信頼が増します。

県としては、農業経営にGAPを取り入れる農業者の拡大に取り組んでいますので、GAPの導入やGH評価を希望される方は、福井農林総合事務所までご相談ください。

(農業経営支援部 牧田)

